

道博協ニュース

第31号

発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第二十九回北海道博物館大会

七月十一日・十二日

江差町で開催

第二十九回北海道博物館大会及び平成2年度の北海道博物館協会総会の開催要領については、前回のニュースにてその骨子をお伝えしました。

その後、シンポジウムの司会、提言者及び施設・史跡見学会コース等が最終的に決定されましたので改めてお知らせいたします。

第一日目 七月十一日(水)
受付 (九時―九時三十分)
開会式・総会 (九時三十分―十一時)

特別講演

「江差の歴史と文化」
郷土史家 宮下正司

シンポジウム
「地域文化の継承と博物館づくり」
司会者 乙部町教育委員会
公民館次長兼学芸員 森 廣樹

第二日目 七月十二日(木)
受付・閉会式 (九時―九時三十分)
施設・史跡見学 (九時三十分―十三時三十分)

上ノ国町教育委員会 学芸員 齊藤邦典
「熊石町歴史記念館における地域文化の継承」
熊石町教育委員会 社会教育課長 松田紀嗣

学芸職員部会 (十七時―十七時四十五分)
懇親会 (十八時―二十時)
第二日目 七月十二日(木)
受付・閉会式 (九時―九時三十分)

施設・史跡見学 (九時三十分―十三時三十分)
上ノ国勝山館・笹浪家・追分会館・中村家・関川家・開陽丸青少年センター

江差町教育委員会 文化財係長兼学芸員 藤島一巳

「上ノ国勝山館跡と地域づくり」

平成2年度北海道博物館協会総会
平成2年度事業報告・平成元年度会計収支決算報告・会計監査報告
平成2年度事業計画案について
平成2年度会計収支予算案について
第三十回北海道博物館大会の開催地について/その他

特別報告

波堤の役割を果たし良港として栄え、ニシン漁や北前船交易の舞台でした。当時の様子を伝える多くの史跡文化財が保存伝承されています。

江差町文化会館

会場となる江差町文化会館は今年五月十八日に開館した新しい施設です。この文化会館は音楽、演劇、舞踊など広る多目的ホールとしての機能を備えており、町民の教育文化施設として今後の活用が期待されています。

江差町追分会館
昭和五十七年四月に開館しました。江差追分の生い立ちと変遷をたどる興味深い資料の数々と、追分の歴史とかわりの強い民俗資料を展示しています。また、古い漁家の内部を再現したコーナーでは、板の間の炉を囲んで座り、往時の追分名人の唄をヘッドフォンで自由に聴くことができます。江差屏風を描いた豪華な緞帳が印象的な舞台では、近代的な映像と音響の設備を駆使して、江差のまちの概要

江差大会 施設・史跡 見学地紹介

平成2年度の第二十九回北海道博物館大会が当町において開催されることとなりました。心から歓迎申し上げます。当町にあります施設や史跡見学地をご紹介します。江差はかもめ島が天然の防

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

江差町追分会館

をまとめたスライド「江差のうた」を上映しています。また、四月末から十月までの毎週末は江差追分をはじめ江差餅つき囃し、五勝手鹿子舞、江差三下り、江差沖揚げ音頭などの道指定無形民俗文化財が実演されています。

旧中村家

江戸時代から日本海沿岸の漁家を相手に海産物の仲買商を営んでいた近江商人の大橋宇兵衛が建てたものです。家



屋は、当時江差と北陸・関西を往復していた北前船で運んできた越前石を積み上げた土

台に、総ヒノキ切妻造りの大きな二階建ての母屋、さらに母屋から浜側まで文庫倉、下の倉、ハネ出しまで続く通り庭様式で当時の間屋建築の代表的な造りとなっています。大正初期に大橋家から中村米吉が譲り受け、昭和四十六年に国の重要文化財に指定され、さらに四十九年に中村家より町に寄贈。五十七年には全面修復が完成し一般に公開されています。道指定文化財横山家と共に江差を代表する建造物の一つです。

旧関川家別荘

松前藩一の廻船問屋の関川家の資料を展示してあります。関川家は三隻の北前船を有し、ほかに十隻を雇入れ、本州各地との交易で商権を拡大。在郷商人の第一人者、松前藩の御用商人として代々苗字帯刀を許され、松前藩随一の豪商の名をほしいままにしました。明治三十年代に九代目が江差を離れるまでの二百有余年の繁栄が偲ばれます。展示資料は北前船によって運ばれた全国各地の焼物、塗物がありま

す。日本三代名士といわれた青木木米の茶道具をはじめ、伊万里焼、九谷焼の沙鉢や輪島塗の漆器類が展示されており、また蔵の中から確認された二十万点に及ぶ古文書は現在整理作業を行なっています。周囲は「えぞだて公園」として整備されていますが、もとはこの別荘の庭園。関川家代々の当主が来遊の友人たちと俳句など風雅に親しんだ様子がうかがえます。

青少年研修施設開陽丸

昭和五十年から発掘調査を行なってきた開陽丸の成果を一堂に集めたものです。平成二年四月にオープンした新しい施設です。外観や装束を、実際の開陽丸に近い形に整え、我が国初の海底遺跡の出土遺物の展示を中心に、開陽丸と江差との関わり、開陽丸の歴史と構造、乗組員の生活、海底遺跡発掘調査の状況などを青少年に伝えることを目的としています。



建物には甲板展示、船内展示、船体展示の三つに分かれ、内部には船長室・士官室・会議室などを再現。実物展示と人体レプリカとの組み合わせや、写真パネル・復元模型・映像レーザーディスプレイなどを効果的に活用し、当時の姿をわかりやすく、立体的に紹介しています。

町内には、この他にも横山家や郷土資料室などの展示施設もありますが、今回は時間の都合で割愛させていただきました。その他にも町内のいたるところに史跡・文化財がありますが、見学会当日に車内で案内いたします。

七月十一・十二日江差町の博物館大会に多くの皆さんに來町いただき、江差への理解を深めていただけるのを期待申し上げます。

江差町教育委員会文化財課

文化財係長・学芸員

藤島一巳

◆当協会監事

阿部要介氏逝去◆

平成二年四月十五日午前五時二十分、当協会監事阿部要介氏が、札幌市中央区中村記念病院で逝去されました。

阿部氏は昭和三年九月札幌市で生まれ、昭和二十八年北海道大学工学部卒業後、北海道新聞社に入社。函館支社報道部長を経て、昭和四十四年北海道テレビ放送に入社、取締役総務局長などを努め、常任監査役を最後に昭和五十七年身を退かれています。その後、「札幌グランドホテルの五十年」など数多くの社史を執筆する文筆活動に入り、昭和五十八年六月からは北海道開拓記念館・開拓の村友の会専務理事、北海道近代美術館協議委員のかたわら当協会の理事に就任し、これからの活躍が各方面から期待される矢先のことでした。

全くの急逝でありましたが四月十七日の告別式には数多くの友人がお別れに集まりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

夕張の地域文化の特性と石炭博物館

今年3月、市内に残された最後の坑内掘りの炭鉱であった三菱南大夕張炭鉱が閉山し夕張は開基以来の石炭の街としての歴史にピリオドを打つこととなった。

石狩炭田の南部に位置する夕張は明治二十一年の道庁による資源調査より、その地の石炭埋蔵資源の有望さから鉄道の敷設と共に急速な炭鉱の開採が進められ、昭和三十年代には出炭量、炭鉱数共に道内最大の炭鉱街として発展した。

二十数年の炭鉱と、十二万の人口を抱え「炭都」と称される程の賑わいを見せた夕張であったが戦後以降急速に進出した石炭から石油へのエネルギー転換が完結する中で石炭資源の価値が産業の構造再編の前に低下するに伴い十分な埋蔵量をもちながらの閉山が相次ぎ地域内の資源放棄の止むなきに至ったものである。

概観すれば石炭産業は時代の国内エネルギーの動向に左右され、市勢はその時代の石

炭景況に左右される構図の下に一世紀百年の間、夕張は石炭産業の変遷と軌を一にした地域であり、その意味で他の地域とは異質の発展を見せた街ということが出来る。

夕張は地域全体が石炭という資源を目的として形成され、その資源の採掘に従事する人々の労働と生活によって歴史が刻みこまれてきた純粋な鉱業の単一産業地域であった。

この地域の独自の文化の形成と変遷については自ずと地域産業の特色を色濃く反映したものととなり、山間地という外部から遮断された地理的環境からの影響も強く反映したものとなっています。

北海道の鉱業開発期の幌内炭鉱に代表される囚人労働や戦時期の中国、朝鮮人の強制労働、頻発した坑内災害等石炭産業のもつ消極的な側面を除外しても、炭鉱の特異な操業形態や労働は地域のリズムをかたちづくり「一山一家」という言葉に象徴される地域

共同体の形成すらも容易にした。このような背景と明治期以降の時間の流れが夕張の地域文化を創造し発展せしめた要因となったものである。

地域における文化の「質」と「量」を記録継承し、その内容を広く紹介することで地域の活性化を図ろうとする試み

夕張の石炭の歴史村の計画である。石炭博物館はその資料記録の中心となる施設として建設が行なわれ、石炭と石炭産業に関するあらゆる資料の収集と展示を行なっている。資料は主に産業(鉱業)用具、機械、生活用具、映像、文献などとし、地域の内外を問わず広角的な観点からの収集を目指している。このことから、道内、道外の鉱業資料

施設との資料の情報交換なども具体化している。現在はイギリスの資料施設との交流も進め、その交流のエリアを国外に求めて行く方向も指向し、昨年まで行なっていたライマンコレクション保存協力等もその一環であった。展示も又、石炭産業や炭鉱

の生活文化という外部からはなかなか理解しにくい側面をカバーする重要な作業となっている。今年四月にオープンした機械採炭切羽(採炭システム)の動態展示は坑内労働や作業環境を知る上で効果的なポイントとなった。

炭鉱跡地を利用した石炭博物館の周辺環境は開坑当初の坑口跡や炭鉱住宅をそのまま残し石炭との関わりを強く印象づける背景ともなっている。

地域文化を「量」として記録継承する基点が石炭博物館とすれば、「質」としての調査、研究活動を担っているのが地域の郷土史団体である。「夕張市郷土資料保存研究会」と「夕張働く者の歴史を記録する会」の二団体がそれぞれ、これまでの地域史の解明と資料の発掘はその活動に拠るところが大きい。今日までの研究成果は「夕張風物抄」、「夕張の碑」、「わが夕張」、「炭鉱に生きる」、「写真集夕張」などの刊行物として出されている。

行政の中では地域の文化財

を守る文化財保護委員会が、年々失われつつある地域の文化財の調査と指定・保存活動を推し進めている。市内の各地域に残る砂金採集地跡や炭鉱の坑口などの案内図や説明板はその活動の一つである。

夕張は今、石炭に代わる産業を興すことに行政が中心となつて取り組んでいる最中である。石炭がこの地から掘り出されて丁度百年、石炭と共に歩んだ地域も今大きな転換期を迎えつつある。新たな産業が興れば又新たな地域文化の土壌としての人が集い、環境ができて行くことであろう。

夕張という地域の文化の特性は一口では語れないが、それが確立されるまでの背景と歴史を地域の中から見つめ続けて行く作業の中にある。

石炭博物館はその役割として歴史の正確な情報の記録と展示の中から夕張の文化を伝えて行く施設として位置づけられている。

夕張市石炭博物館

館長 青木隆夫

OA機器の利用④ 小樽市青少年科学技術館に

おけるパソコン利用

1 講座における利用

当館では今年度ワープロ教室を含め二つの講座を実施しているが、昨年度までは初心者向けのパソコン教室もあわせて三講座実施していた。その内容等については、表一に示す。

講座におけるパソコンの利用方法にも二通りあり、一つはパソコンそのものの使い方を中心に学習するための利用。もう一つは、ソフトを活用して他のことを学習する、つまり道具としての利用である。当館の講座の場合は前者中心の利用である。

パソコン教室は、パソコンの一般家庭への普及に伴い最も簡単なBASIC言語の基礎をマスターしてもらい、プログラム作成ができるまでを目標に講座を進めてきた。

しかし、最近では初心者もパソコンを扱う上でBASIC言語は必ずしも必要なもので

はなくなってきた。例えば、扱う言語もBASIC言語ほどポピュラーなものではないが、より簡単に扱いやすいものも出てきている。ただ、最近では各種ソフトが市販され

ており、そのソフトを利用することにより目的を達成することができている。このような状況を考え、また設備や他の業務との関係もあり、昨年度でパソコン教室を打ち切った訳である。今後については検討

中であるが、利用者が急増しているパソコン通信関係やソフトを利用するの目的は、パソコンの使い方に関する講座などがより多くの利用者の目的に合っているものと考えられる。ワープロ教室は、高校生以上を対象に行っているが、パソコン教室同様初心者コースである。使用している機種は富士通のワープロ専用機。現在、ワープロを9台使用し、一人一台が理想であるが希望

者が多く二人で一台という形で行っている。他講座との比較は、曜日や時間帯の違いなどがあり簡単にはできないが、多くは定員を越える希望者がありワープロへの関心の高さが伺える。

ワープロはパソコンと違いキー操作が中心になる。改善はされてきているが、まだまだメーカーによって操作やキーボードのキー配列が大きく違う所があり、講座で習ったことがそのまま役立つ疑問である。講座で使用する機種の選択は、このように難しい面があるが、当館としては、ワープロとはどのようなものであるかを理解していただければ目的はある程度達成されたと考えてよいであろう。

最近では、ワープロにもパソコン通信の機能が付加されているものが多く出ており、単なる文書作成装置でなくなってきた。さらに今後、ハード面の性能向上やソフトウェアの改良が進められ、メーカー間の互換性が出てくるなどしてユーザーにとっては、い

が、一人一台が理想であるが希望者が多く二人で一台という形で行っている。他講座との比較は、曜日や時間帯の違いなどがあり簡単にはできないが、多くは定員を越える希望者がありワープロへの関心の高さが伺える。

(表-1) パソコンを利用した講座

講座名	実施年度	内 容	概 要
初心者向けパソコン教室	昭和58年度 ～平成元年度	BASIC言語による簡単なプログラム作成を目標として基礎を学習	a) 小・中学生対象 毎週金曜日 15:30～17:00 7回 b) 一般対象 毎週土曜日 15:30～17:00 7回 定員 各10名・年4～5回開催
ワープロ教室	昭和59年度～	<ul style="list-style-type: none"> ワープロについて 文書作成練習 	高校生以上対象 毎週日曜日 10:00～12:00 4回 定員 18名・毎月開催
ジュニア実験・実習講座 パソコン部	昭和59年度～	BASIC言語によるプログラム作成に必要なコマンド、ステートメント等について学習	中学生対象 a) パソコン部A 毎週水曜日 17:15～18:45 b) パソコン部B 毎週土曜日 15:30～17:00 定員 各20名・年間30週

っそう使いやすいものになり、利用者も増加していくであろう。そのような状況の中で今後のワープロ教室の在り方も含め見直しが必要になってくるものと思われる。

ジュニア実験・実習講座は、開館以来設けられている講座で、小学校5年生から中学3年生を対象に毎年募集し、夏・冬休みがあるが5月から3月まで年間通して行っている。内容によってクラス分けをしているが、特に中学生はパソコンの他物理・化学・天文・技術・通信のクラスがあり、自分の好きな分野の知識を広めていくことのできる講座である。今年度は、小・中学生合わせて320名程の受講生から成り立っている。

パソコンのクラスは、昭和五十八年度に新設されたもので現在は2クラスあり、機器の台数の関係で定員20名というところで募集しているが、定員を越える希望者がいる。ジュニア実験、実習講座は他の講座と違い長期間のものであり、さらに中学生の場合、

自分の能力に合わせて進めていくことができる。初心者にはBASIC言語を中心に始めるが、その他機械語やパソコン通信などについても講座の中で扱っている。

以上のように特に特色のある講座を実施しているわけではないが、講座を進めていく上で問題になるのは、講座の在り方もあるが、他に機器の更新がある。数年前のパソコンは利用できるソフトや周辺機器もなくなり、性能の点でも物足りなく使用範囲が限られてしまう。当館のような小規模館では、予算の関係などがあり思うような機器の更新ができないのが現状である。OA機器の発展はめざましく、立ち後れてしまう傾向にあるが、科学館としてもできるだけ社会のニーズに合わせていかなければならない。

2 展示における利用

展示におけるコンピュータの利用は、今や常識化し小規模館でも色々と活用されている。しかし、外注による展示品はハード・ソフト共高価

であり、当館においては導入がなかなか難しく現状としては、殆どのものがパソコンを使用してソフトを含めて自作展示である。短期間の催しなどにも利用することがあるが、現在常設展示としてパソコンを利用しているものについては表1・2に示す。

最近のパソコンは、低価格で性能も向上し、さらに、視覚機器などにおいてもパソコンによる制御が可能なものが多数あり、手軽に展示などに利用できるようになってきた。

当館では夏に特別展を開催するが、特別展における展示にも数台のパソコンを利用する予定がある。館の事情でその中の何点かは常設展示として残す考えであり、パソコンを利用した展示は増加の傾向にある。今後のパソコン関係の利用については、講座との兼ね合いもあるが、機器の更新を進めていくとともに古くなったパソコンの展示利用も併せて考え、展示の充実を計っていきたい。

(表-2) パソコンを利用した展示

展 示 品 名	展 示 年 度	概 要
おしゃべりロボット	昭和63年度～	人の動きをキャッチしてロボットが話をする
パソコンクイズ	昭和63年度～	科学に関する問題のQ & A
ランドサットから見た地球	昭和63年度～	レーザーディスクを使った映像 (レーザーディスクの制御)
コンピューターで絵をかこう	平成元年度～	小型入力タブレットとペンを使いディスプレイ上に絵をかく
コンピュータークロマキー	平成元年度～	コンピューターを使い、テレビ放送の特殊技術であるクロマキーを体験する

館 園 紹 介

◇熊石町歴史記念館◇

「熊石町歴史記念館」は、昭和六十二年十月にオープンいたしました。町民の待望久しい施設であり、故郷の歴史的遺産を通して町民が未来への課題を認識し、あわせて産業・観光の振興へも大きな役割を果たそうという、いわば欲張った施設です。郷土の歴史に様々な民俗資料を重ね合わせ、この時点での熊石町の歴史を最も良く再現する場としてスタートしました。

おしなべて道南は古い歴史をもつ町が多いが、熊石町も北海道では歴史の古い町です。渡島半島の中央部にあって日本海に臨み、古くから漁業地帯として開け人々の生活も又、海に支配され、海を支配し、その歴史も海と共に歩んだ町です。

の江差の五月を支えてきたのが、熊石の鯨魚です。

北海道の名付け親としても有名な松浦竹四郎は「西蝦夷日記」のなかで熊石の鯨魚を称してその盛んなる様子を「宇宙の壮观なり」と記している。また松前藩は、西在（日本海側）の北限を熊石と定め番所を設置しました。蝦夷との国境としての藩の戦略上の重要な土地であり、それは又当時の日本の最北端の地でもあったのです。

このように熊石町の歴史的背景は個性的で非常に豊かな内容を持っています。しかし、具体的にそれらを示す文書や民俗資料等は昭和六二年までの時点では極めて貧困でありました。

従って、館としては郷土民俗資料を展示する館というよりはむしろ、その歴史的事象の再現を目指す館としての位置づけられ、ジオラマや人形、マルチスクリーンライド等を多用する事によって館としての個性を発揮するように努めました。そして、それら展

示の全体像が、観光に寄与しひいては産業の発展に寄与するものとして建設の基本的な構想がまとまったのです。

主展示室は熊石町指定文化財の「板状土偶」や鮎川遺跡出土の「メノウ入り土偶」(レプリカ)等の他、伝説「奇岩雲石」のジオラマ、熊石を訪ねた歴史的人物や親方の部屋模型等の他、中央には門昌庵事件のスライドによる物語を壁の上に座ってみられる「門昌庵物語」のコーナー等がある。

映像ホールは、マルチスクリーン「海と歴史と人間」による熊石町の紹介のコーナーで町の全体像がわかりやすくまとめられている。

総工費 三、六億円余。
開館時間 午前九時～午後五時
入館料金 大人二〇〇円、中高一〇〇円
住所 所 蘭志郡熊石町字平
電話 〇一三〇〇八二二二〇〇
熊石町歴史記念館 熊石町
教育委員会
社会教育課長 松田紀嗣

◇大成町郷土館◇

日本海の美しい景勝地大成町は、自然の造形美を見る。

奇岩、怪岩に恵まれた嘉吉年間(一四四一年)より開拓された歴史のある町です。

大成町郷土館は、町の歴史資料、考古資料、民俗資料の収集保管に務め、教育普及活動を行う反面、美術史、考古学等の調査研究機能事業を行うことを目的に、昭和五十七年に建設されております。

以来、町の主産業である漁業を中心とした民俗資料を幅広く収集保管展示し、更には、理蔵文化財の発掘調査等によって出土した考古資料、古文書、民具等の分野については、収集保管が進められております。

反面、郷土にかかわる絵画、工芸品等については収蔵品が少ないのが悩みであります。大成町は、古く「西蝦夷地」として栄えた歴史のある町であることより、町の特徴をいかした郷土館づくりに向け、「郷土館だより」を発行する一方、展示説明もただ単に、



表示だけでなく、誰が、いつ、どこで、なんのために使用したかなど細かく説明標示し、観覧者が自由に直接見て、触れて、動かすなどの実体験が出来る、理解を深めえるよう工夫し、親しみと暖かみのある郷土館として多く利用され今日に至っております。今後は、分野分野の古老の意見と収集協力者のご意見を充分に反映させ、収集保管に務め、「全くの素人のでづくり郷土館」として町の歴史文化を、社会教育、学校教育活動に「学習の場」として積極的に利用拡大を図ってまいります。

大成町郷土館

館長 寺分昭二

館 園 紹 介

◇乙部町公民館郷土史料室◇

昭和四三年町文化財調査委員条例が施行され、民具を中心に文化財収集活動が始まり、昭和四四年に町福祉センター内に開拓記念物資料室が開設された。昭和五二年に町文化財調査委員の会議で郷土資料館の必要性についての具申書が町に提出され、昭和五八年十一月三日乙部町公民館一階三二〇平方メートルに郷土資料室がオープンした。

資料室は「郷土」をテーマに系列的に十プロックのコーナーに分け、次のように展示している。

一、乙部の自然では、六科八七種の乙部に棲息する蝶の標本を中心に、野鳥のジオラマ、貝化石。

二、大昔の乙部では、姫川十五遺跡で発掘された縄文時代中期末の竪穴式住居の原寸復元模型を中心に、昭和五八年より発掘調査された元和遺跡群、栄浜遺跡、オカシ内・元和十五遺跡出土の縄文時代早

期から擦文時代に亘つての土器、石器。

三、ニシン漁から現在の漁業

では、明治初期のニシン漁場のジオラマを中心に、ニシン、アワビ、コンブ、イカなどの漁業用具、江戸時代のニシン漁家三上家の文書。

四、開進社から現在の農業では、昭和二十四年製作の開拓の歴史絵図を中心に、農具、大正期に農家の多角経営を指し集落ごと取り組んだ姫川向上会資料。

五、林業では、造材用具、植林杉標本。



六、商工業では、ゲタの製作用具三三点、明治期から昭和四五年頃まで盛んであった造船具六十点。

七、町のくらしと道具では、身近な生活用具二百点。

八、消防・交通・通信では、消防服、昭和二十年頃の手持し消防車。

九、学校教育のあゆみでは、明治から昭和までの教科書の変遷、昭和三十年頃の小学校教室の一部再現。

十、開基百年のあゆみでは、町史年表と写真、身近な行政記念品の組み合わせで、展示している。

自然から現在までの乙部を表現しているが資料、調査研究が不十分であり、これらの不備を補いながら、郷土学習の中心的役割を果たせる場としていきたい。

◇館園の主な行事案内◇(7月～9月)

●弥永北海道歴史館

7・20～9・20 特別展「北方地図展」

●札幌市資料館

7・31～11・25 歌誌「新聖」

●札幌市青少年科学館

7・21～8・19 夏休み特別展「仮おもしろ実験大集合」

7・14、15、28、29、8・4、5、18、19、9・13、14 札幌市天文台夜間公開

7・20、21、6・4、25、9・15 特別放映「星空へのいざない」

●札幌市円山動物園

7・10～8・31 第18回幼児児童動物画コンクール

7・30、31、8・1、2 一日飼育係

8・2、3 夜の動物園見学会

●札幌芸術の森

7・15～11・4 「トリ・鳥・torii展」

8・11～10・10 「笹戸千津子展」

●北海道開拓記念館

8・10～11・4 第38回特別展「アイヌ文化の成立」

26、27 夏休み歴史講座「地

図に親しむ」 9・1 講座

「社会見学で博物館を活用する(II)」 9・29、30、10・2

アイヌ語講座「アイヌ民話を読む」

●北海道開拓の村

7・29 北海道開拓の村児童写生会

8・1～8・31 第8回特別展「カメラの歩み明治から昭和にかけて」

8・11、12 開拓の村まつり

9・2～9・30 北海道開拓の村児童絵画展

●北海道立近代美術館

7・28～9・5 特別展「19世紀ロシア絵画展」

9・12～10・21 「ワイエス展」

9・22 美術講演会「ワイエスとその技法」

●北海道立三岸好太郎美術館

7・31～8・24 たんけん美術館

8・25、9・29 美術館コンサート

●北海道立文書館

7・15～7・21 開館5周年記念事業(講演会、特別展、講習会)

●北海道立函館美術館

7・1～8・5 特別展「オ

所在地 043-0101 蘭志郡

乙部町字館浦四一

電話 01399-213311

開館時間 午前十時から午後四時三十分まで

休室日 毎週月曜日、土曜日

午後から、国民の祝日、年末年始(十二月二九日から一月四日)

入室料 無料

乙部町公民館郷土資料室

公民館次長 森 広樹

リエンタリズムの絵画と写真展」9・23～10・27 特別展

「モダニズムの系譜」

●小樽市博物館

7月上旬～8月上旬 特別展

「截金・美と歴史(仮)」7・

7 見学会「ニシン場の跡を

訪ねて」

●美唄市郷土史料館

7・26～9・27 特別展「ピ

バイ原野の開墾と農具」8

・19 講座「わらじづくり」

●旭川市青少年科学館

9月下旬(一日間) 星空寄席

●市別市立博物館

7・15～8・19 特別展「日

本版画協会巡回展」サマー

スクール 7・27「昆虫採集

と標本づくり」7・28、8・

12「縄文土器をつくろう」

●北海道立旭川美術館

8・18～9・24 「ユトリロ

とモンマルトルの画家たち」

●苫前町郷土資料館

7・20頃～8・20頃 特別展

「北の野鳥展」

●網走市立美術館

7月下旬 「全道展(美術)移

動展」8月上旬 オホーツ

クアートセミナー 9月中旬

「下沢木鉢郎版画展」

●北網圏北見文化センター

7・20～8・19 「オホーツ

ク秀作美術展」

●苫小牧市博物館

8・26～9・23 第18回特別

展開館5周年記念「紙の文化

史展」8・1 自然観察会

●室蘭市民俗資料館

7・25～8・30 特別展「私

の宝物 市民コレクション展」

●帯広百年記念館

7・25 夏休み親子遺跡見学

会 9・15 1000万年の

生いたちを探る市民巡検

●幕別町ふるさと館

9・2 町内歴史散歩

●厚岸町郷土館

7月 第19回ふるさと教室「ア

ツケシ地名探訪会」9月 見

学会「第2回アツケシ草現地

観察会」

●釧路市青少年科学館

8・5～8・12 第15回特別

展「ロボット大集合展」8

月第1週の1日 第3回ブラ

ネタリウム・コンサート

●釧路市立博物館

9・2～9・9 「釧路管内

理科標本展」

◆新入会員◆

〔団体会員〕大成町郷土館

(久遠郡大成町字都三八六、

江差町郷土資料館(檜山郡江

差町字本町二七一)、えりも

町漁業振興センター水産の館

(幌泉郡えりも町字新浜二〇

七一一)、熊石町歴史記念館

(南志都熊石町字平三二五)

三)、開陽丸青少年センター

(檜山郡江差町字姥神町一

十)、羽幌町郷土資料館(苫

前郡羽幌町南町)、砂川市郷

土資料館(砂川市西八条北三

丁目一一一)、風連町歴史民

俗資料館(上川郡風連町南町

十七)、天塩川歴史資料館(天

塩郡天塩町新栄通り六丁目、

栗山町開拓記念館(夕張郡栗

山町角田六〇一四)、今金町

教育委員会(瀬棚郡今金町字

今金四三二五)

会則に従い後任の方々は、協

会理事及び監事となりました。5・15

第29回道博協大会事

務打ち合せのため、

開催地江差町教委藤

島一巳氏来訪。

道教委より第29回道

博協大会名義使用の

承認をうける。

4・19 事務局会議。

4・24 室蘭民俗資料館館長

春菜一芳氏より平成

元年度会計監査を受

ける。

4・26 事務局会議。新人事

による事務局の役割

分担について決定。

5・8 平成2年度第一回役

員会(7・10 於江

差町)の案内状を各

役員に発送。

第29回道博協大会に

対する後援依頼状を

道教委、江差町、日

博協へ送付。

5・9 第29回道博協大会開

催案内状を会員及び

関係方面へ発送。

5・12 日動水協北海道プロ

ックへの補助金交付

(6・7～8 釧路市

において春期飼育技

術者研究会を開催)。

第29回道博協大会事

務打ち合せのため、

開催地江差町教委藤

島一巳氏来訪。

道教委より第29回道

博協大会名義使用の

承認をうける。

5・19 道教委へ第29回道博

協大会補助金を申請

第29回道博協大会開

催地江差町へ開催地

負担金の申請を町長

あて送付。

5・24～26 第29回道博協大

会現地打ち合せのた

め事務局長(矢島)、

事業担当次長(山田

健)、庶務会計担当

次長(丹治)を江差

町、熊石町、上ノ国

町、乙部町及び函館

市に派遣。

◆お知らせ◆

事務局体制が四月一日より

事務局長 矢島 晋、次長

山田 健(事業担当)、同 丹

治輝一(庶務・会計)、事業担

当 山田悟郎、庶務・会計担当

小田島和平に変わりました。

◆協会役員異動◆

本年春の人事異動により小

樽市博物館館長は高井隆夫氏

から栗原弘茂氏に、室蘭市民

俗資料館館長は協靖彦氏から

春菜一芳氏に変わりました。